

盛会だった滬友会の新年賀詞交歓会

恒例の滬友会の新年賀詞交歓会が、2003年1月17日、霞山会館9階ホールに於いて、開催されました。来賓を含め80余名参加の元気一杯の新年会でした。

藤田滬友会会長、近衛霞山会会長、武田愛知大学学長、小田愛知大学同窓会会長各位の祝賀挨拶がありました。

藤田会長からは、年々滬友メンバーは少なくなりますが、霞山会の発展や愛知大学のICCS（国際中国学研究センター）発足などに大いに期待していると、熱い声援を送ってくれました。

近衛会長からは、PFI（Private Finance Initiative）法による霞山ビル立替の紹介がありました。霞ヶ関（150m）以上の高層ビル2棟を計画、1棟に文部科学省、会計検査院など。1棟に霞山会、ほかの民間、金融庁など。この最上階に霞山会が入ります。平成19年完成です。見晴らしも良くなります、皆さんそれまで元気でいてください、と熱く語られました。

愛知大学東京事務所、滬友会事務所のスペースも希望によっては拡大され、愛知大学のサテライト教室開設などの可能性も考えられます。

武田学長からは、来年完成の車道校舎建設やロースクール、ICCSなどの現状報告がありました。愛大の中国研究の話題に触れると、滬友のみなさんは目を細めてお聞きでした。

小田同窓会会長からは、10万人同窓が一致団結して、愛知大学を支援していきます、と力強いご挨拶がありました。

愛知大学からは、古森現代中国学部長、高橋現中教授も出席されました。歓談の中で、中国への思いを愛知大学に託されていることを強く感じられたことと思います。

美味しい銘酒・八海山に盃を上げ、書院102年の思い語るに時間は足らず、長江の水…、嵐吹け吹け…、月影砕くる…（愛大寮歌・書院45期予科亀田氏作詞）などの高唱に肩組めば青春の思い上海へ。書院に生きた、我が人生に悔いなしと自信に満ちた、書院先輩に乾杯。

和やかな中に、学ぶこと多い楽しい新年賀詞交歓会でした。

愛知大学同窓会 中 島 寛 司